

『アイヌ通史』 岩波書店 正誤表

第一刷（2021年7月28日発行）

頁	誤	正
ix 14 行目	narative	narrative
xviii 9 行目	アイヌの他者	他者としてのアイヌ
xviii 16 行目	同士愛	同志愛
12 頁 4 行目	「二段」構想	二重構造
12 頁 8 行目	大衆	トル
22 頁 12 行目	etnie	ethnie
31 頁キャプション	のアイヌ	トル
32 頁 1 2 行目	魂	靈魂 (ほかも統一)
57 頁 8 行目	このような人たちがアイヌ社会においてどのように受け入れられたかを示す史料はほとんどないが、（公平な見方ではないかもしれないが）一八五六年にある和人の役人が、サルとモンベツ地域には和人男性とアイヌ女性との間で生まれた多くの「通じ子」が暮らしており、「シャモ種」と呼ばれ、他のアイヌからも尊敬されていると観察している。いくらかの者は多民族の先祖を持っていることを誇りに思っていた*89。	このような人たちがアイヌ社会においてどのように受け入れられたかを示す史料はほとんどないが、（公平な見方ではないかもしれないが）一八五六年にある和人の役人が、サル・モンベツ（沙流・門別）地域には和人男性とアイヌ女性との間で生まれた多くの「通じ子」が暮らしていることを観察している。『シャモ種』と呼ばれ、他の地域では彼らを尊ぶような風習があり、自分たち自身も多民族の出自に対する誇りを持っていたが、この地域では逆にいやしい身分であったということを記述している*89。
63 頁 11 行目訳註 (1)	の担い手の一部	トル
74 頁の引用	改テ	改メ
108 頁 4 行目	大衆的な出版物	一般的な出版物
112 頁 4 行目	すぐに刑事課長に挨拶するために廊下を上がっていった。	すぐに刑事課長のところへ挨拶に行った。
149 頁 9 行目	訳註 9	訳註 10
155 頁 9 行目	イカスバ	イカスバ (イカスバ)
168 頁 5 行目	授業の省くこと	授業を省くこと

188 頁 14 行	荒井と彼のもう一つのアイヌのグループはさらなる陳情書をもって活動を続けた	荒井はさらに、先に上京したグループとは別のアイヌたちと、新たな陳情書をもって活動を続けた
212 頁 2 行目	活動をはじめ、	活動をはじめとし、
233 頁 10 行目	刊行メンバー	刊行会メンバー
236 頁 16 行目	遼星北斗はすべての試作を通して一度しかアイヌモシリに言及しなかった	遼星北斗はすべての試作を通して二度しかアイヌモシリに言及しなかった（「大空」「冷たき北斗」）
241 頁 11 行目	この日本社会の単一民族性への賛美は、次第に部落民や在日コリアンの問題について一部の日本人の「社会的偏見」または他の要因の結果として放棄することを正当化するようにになっていった。	この日本社会の単一民族性への賛美は、次第に部落民や在日コリアンの問題について一部の日本人の「社会的偏見」その他の要因による結果でしかないものとして斥けることによって正当化されるようになっていった。
250 頁 17 行目	民話	散文説話
270 頁 4 行目	民話	トル
287 頁原注 67		Tonkinson の発行年→ 1989.
310 頁 6 行目	特定に	特定の
346 頁リスト		Fosco Maraini (1995) と Richard Siddle (1997) の間に、 Richard Siddle, 'The Ainu and the Discourse of 'Race'', in Frank Dikötter ed., The Construction of Racial Identities in China and Japan: Historical and Contemporary Perspectives, London, Hurst & Company, 1997, pp.136-157.
348 頁 6 行目と 8 行目	ルウォレン	ルアレン

第二刷（2021 年 10 月 25 日発行）

頁	誤	正
184 頁 1 行目	人間	人間
194 頁注 1	(9)	(10)
204 頁 14 行目	徳右衛門（コピサントク）	コピサントク トル
234 頁 16 行目	同支部	札幌アイヌ文化協会
250 頁 3 行目	ジャズバンド	バンド

268 頁 1 行目	その文化を疲弊させてしまうか、	その文化の活気を失わせてしまうか、
271 頁 13 行目	アイヌ先住民族として認めない	アイヌを先住民族として認めない
275 頁 7 行目	和人のマジョリティの賢明な態度	マジョリティとしての和人の賢明な態度